

広報 きたもと

きっと、もっと、きたもとが好きになる 旬な話題をお届け!

6月
2017 No.952

特集面



特集1 北本ゆかりの偉人

北里大学特別荣誉教授

大村 智 博士

北本市民荣誉賞

2015年ノーベル生理学・医学賞 受賞

特集2 男女共同参画

ノーベル生理学・医学賞受賞および文化勲章受章記念祝賀会にて
平成28年3月10日 帝国ホテル東京
学校法人北里研究所主催

北本市と 北里大学メディカルセンター

北本市では、平成26年10月より、病気や病気の回復期で集団保育が困難であり、仕事などの事情で保護者が家庭で保育できないときに、一時的にお子さんをお預かりする「病児保育事業」を北里大学メディカルセンターへの委託事業として実施しています。この事業は、看護師・保育士が常駐している、病院併設の保育室で保育を行い、保護者の子育てや就労等の両立を支援することを目的に開始しました。

また、北本市では、北里大学メディカルセンターに対し産科医の確保を支援しています。



病児保育室

大村記念館



北里大学北本キャンパス内には、大村智博士のこれまでの研究成果や開発の歴史、博士による絵画等のコレクションが展示されている、「大村記念館」があります。

開館日：祝日を除く月曜日、水曜日、金曜日
10:00～16:00

※詳しくは学校法人北里研究所のホームページをご覧ください。

<https://www.kitasato.ac.jp/>

大村博士メッセージ

[北本市民栄誉賞贈呈式にて]

私はよく「他人の真似をしない。他人の真似をしたら、その人を超越することはできない」と言っています。が、病院の建設も同じで、普通の病院とは違うヒーリングアートのある病院にしたいと思ひ、多くの皆さんの御協力により絵画をそろえ、患者や家族、病院で働く人々のために癒しの空間を用意しました。この病院は格別なので、大事にしたい。だき、大いに活用していただき、皆さんの健康維持に役立てることができれば、この上ない喜びです。今後とも北本市の皆さんに愛され、誇りに思っていただけのような病院にすべく、心掛けていきたいと思ひます。どうぞ、よろしく願ひいたします。



北里大学メディカルセンター内に飾られているヒーリングアート



建設前

建設後



北本ゆかりの偉人 大村智博士

北里大学特別栄誉教授

北本市民栄誉賞 2015年ノーベル生理学・医学賞 受賞



～北里大学メディカルセンター開院の思い出～

「1982年、私は新しい病院建設の土地を探しており、ヘリコプターから緑がどこまでも広がる牧草地に降り立ちました。それが、当時北本市にあった農事試験場の跡地でした。周囲を素晴らしい自然に囲まれたこの場所に、医療の提供だけでなく、地域文化の発信基地としての病院を作りたいと早速土地の取得に乗り出しました。病院建設の調整に難航しましたが、署名運動など多くの皆さんのお力添えのおかげで、1989年に病院を開院することができました。」

[北本市民栄誉賞贈呈式にて]



大村智博士は、これまでにおよそ500種の化合物を発見し、そのうち26種類が医薬、動物薬、研究用試薬として実用化されています。その一つがイベルメクチンと名付けられた化合物であり、アフリカや南米の熱帯地方で流行しているオンコセルカ症（河川盲目症）やリンパ系フィラリア症（象皮症）といった重い感染症を予防・治療する特效薬となりました。この薬は看護師など医療関係者の手を

借りることなく、住民のボランティアによって配布され、年1回服用するだけで効果を発揮し、さらには1987年に最初に使われて以来、耐性菌も出現せず、WHO関係機関を通じて世界中に無償配布され、年間約3億人の人々を救い続けています。これらの功績が認められ、大村博士は2015年にノーベル生理学・医学賞を受賞されました。

現在も、北里大学特別栄誉教授や女子美術大学名誉理事長など、研究にとどまらず幅広く活躍されています。

村博士がイベルメクチンの特許料を投じて建設された病院で、隣接する北里大学看護専門学校やそれに付設する大村記念館とともに、地域医療の拠点施設形成に多大な貢献をされました。市ではその功績を称え、2016年に北本市民栄誉賞を贈呈しました。